

特集 学生の研究活動報告－国内学会大会・国際会議参加記 27

ASEAN グローバルプログラム に参加して

藤本 朋希
Tomoki FUJIMOTO
機械システム工学科 2年

1. はじめに

2017年8月29日から9月7日までの10日間、企業訪問やPBLを含むASEANグローバルプログラムに参加した。最初の5日間はベトナムのハノイで、残りの日数はシンガポールでプログラムをこなした。具体的なプログラムの日程を次の表に示す。

表 プログラムの日程

8/29	出国
8/30	企業訪問
8/31-9/1	PBL
9/2	博物館観光(ハノイ)
9/3	博物館観光(シンガポール)
9/4	大学訪問
9/5	講演会
9/6-9/7	帰国

2. 志望動機

今回私がこのプログラムに参加した動機は、今の自分にはやりたいことがなく、何にも興味ももていなくて、このまま4年間過ごしていてもだめだと思い参加を志望した。また、まだ海外に行ったことがなかったので、自分の視野を広げるためにもこの機会に海外に出てみようと思い参加を志望した。

3. 目的

私が今回渡航するにあたって目的としたことは「英語を積極的に使って現地の方々とコミュニケーションをとる」、「文化のちがいを、価値観を学ぶ」、「何か小さなことでもいいから自分のためになるこ

とを吸収する」の3つを設定した。そして、今自分に何が足りていないかを知ることで将来のためにこれからどうしていけば良いかを見つけ出すことを目的とした。

4. 研修内容

4.1 企業訪問

散水用品の製造を行っているTAKAGIベトナムとソフトウェアのオフショア開発を行っているRikkei Soft, NTQをそれぞれ訪問した。TAKAGIベトナムでは普段見ることのできない工場見学をさせてもらい、機械で作業を行っているところや女性ばかりが働いている現場を見せてもらい、男性よりも女性が多く働くというベトナム人の特徴も見られて良い経験ができた。Rikkei Soft および NTQ では主にその会社の社員さんとグループごとに交流会を行った。そこではベトナムのことやプライベートのことまでも深く話せて楽しかったし、勉強になった。

4.2 PBL

PBLでは、日本人学生5人とハノイ工業大学の学生2人のグループでユニクロの商品を対象にしたPromotionについて調査を行い、その結果をまとめ、プレゼンした。調査の方針やどのようなアンケートを取るかなどベトナム人学生と話し合うときに英語で会話をしなければならないが、伝えたいことを上手く英語にすることができず苦戦した。日本人なら断りがちな街頭アンケートをベトナム人の方々は素直に受けてくださり、ベトナム人の人柄の良さも知れた。また、ビジネスパーソンの前でプレゼンしたことは自信になった。

4.3 博物館観光

ハノイでは戦勝記念博物館、歴史記念博物館、文廟をそれぞれ訪問し、シンガポールでは国立博物館を観光した。小、中学校で学んだベトナム、シンガポールの歴史が詳しく展示されていたが、日本の博物館とは違い、ベトナムはベトナム目線で、シンガ

ポールはシンガポール目線で展示や説明がなされていたので新鮮だった。

4.4 大学訪問

南洋理工大学を訪れ、まず初めに実際に授業に参加をしたが英語で授業が行われるので先生の話していることはあまり聞き取れず理解できなかった。しかし、世界で上位に位置する大学ということで、授業態度を注意深く見ていたが、日本の学生のように机に頭を伏せて寝ている学生は一人もいなくて驚いた。授業に対する意識が日本人と異なるのだろうかと思心したと同時に、自分も見習わなければならないと思った。次に研究施設をいくつか訪れたが、どの施設もなかなか見ることのできない所だったので、非常に勉強になったし興味深かった。

4.5 講演会

シンガポールで活躍されている築野さん、加藤さんの講演会および、築野さんに加え、日本人ビジネスパーソンの寺嶋さん、芝崎さん、大野さんとの交流会が行われた。築野さんも加藤さんも今まで聞いてきた講演の中で一番興味深い話をしてくださったと個人的には感じた。日本でしか仕事をしたことのない人の講演ではなかなか聞くことのできない貴重な話だったので、自分の考え方、価値観が変わり、自分の視野を広げられたと思うので良い経験ができたし、モチベーションがとても上がった。

4人のビジネスパーソンの方々との交流会では、私たち学生を4つのグループに分けてそれぞれのグループに1人ずつビジネスパーソンに加わってもらい20分間学生から質問をしてビジネスパーソンに答えてもらうという形で行われた。少人数に分けて一人ずつとの交流だったので聞きにくいことでもとても質問しやすい環境だった。留学を決意したきっかけや転職するときの不安や怖さなど気になることを細かく聞くことができて良かった。

5. おわりに

自分の知らない世界に身を置くことで、自分に足りないものや自身の英語力の向上はもちろん、将来のために今やらなければならない課題を見つけることができたし、自分の視野を広げることができた。海外に目を向けたことはなかったけど、このプログラムを通して海外で仕事をしたいと思えた。これからは大学の授業はもちろん、英会話を中心に英語の勉強にも本腰を入れて大学卒業までに日常会話を話せるようになり、将来の選択肢を広げたいと考えている。今回の経験で知ることができた多様な考え方を生かし、世界で活躍できる人材になれるよう頑張っていきたい。

このような貴重な経験をさせてくださったこのプログラムに関わった皆様に心よりお礼申し上げます。